

算数科 授業改善推進プラン

1 学力効果測定結果

- どの学年も区平均を下回っている。領域に関して言うと、図形、数と計算、データの活用で区の平均を大きく下回っている。
- 4年生に関しては、すべての領域で区の平均を下回っているが、特に測定の領域が大きく下回っている。内容別に見ると、長さや重さの正答率が極端に低い。他にも、足し算と引き算の問題も正答率が低い。
- 5年生に関しては、すべての領域で区の平均を下回っているが、特に数と計算の領域が大きく下回っている。内容別に見ると、わり算と計算のきまりの正答率が極端に低い。
- 6年生に関しては、すべての領域で区の平均を下回っているが、特にデータの活用の領域が大きく下回っている。内容別に見ると、円グラフや帯グラフ・平均の正答率が低い。ほかにも小数の計算の正答率が低い。

2 児童の実態及び学習効果測定の結果分析（課題）

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
<ul style="list-style-type: none"> • 10 までの数の構成は理解しているが文章問題の理解が難しく、加法・減法の区別がついていない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> • 計算は積極的に取り組むが、文章問題は苦手な児童が多い。 • 量感をつかむのに時間がかかる。 • L、dL など単位を揃える計算で混乱する傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> • 読解力が乏しいため、問題文の内容を把握することができず、自己解決に至らない児童が多くいる。 • 算数に苦手意識があるため、じっくり考えることなく取り組み、誤答をする児童が多くいる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 計算などの基礎的な事が身に付いていないため、目標値よりも低い結果となっている。 • 重さや長さなどの仕組みについて知識が定着していないため、目標値より 10%以上低い結果となっている。 • 時間内に問題を解き終わっていない児童が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> • 小数や分数の計算など基礎的な事項の定着ができていないために、目標値よりも 10%以上も低い結果となっている。 • 与えられた情報を読み取り、基準量と割合から求めた比較量を比べる問題への無解答率が 50%以上であり、苦手意識をもっている児童が多く、数直線図などを活用して立式する練習を日頃から取り入れていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> • 校内の平均正答率が大田区全体より 7 ポイント以上低い結果となっている。 • 小数と分数の大小比較や小数のかけ算、わり算といった基礎問題の正答率が軒並み大田区の平均より下回っている。 • グラフ等の資料を読み取り、自分の考えを説明する問題の無解答率が 50%を超えている。また、応用問題の正答率は大田区の平均より下回っている。

3 課題や授業の改善策

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> • 教科書を徹底活用する。 • 問題文をよく読み、キーワードとなる言葉を正しく理解させるようにする。 • 飽きないように工夫しながら、繰り返し知識の積み重ねに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> • 具体物を多く用い、児童が実際に操作する機会を増やし理解につなげる。 • 10の合成分解や繰り下がりの計算などをプリントやフラッシュカードを活用して授業の最初に繰り返し復習をして定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> • 教科書を徹底活用する。 • 絵や図を用いることで、計算方法へ理解を深めさせる。 • 計算の手順や順番を繰り返し確認できるようにする。また、基礎的な問題に繰り返し取り組み、確実に解けるようにする。 • 長さや重さに関しては、実践的に長さや重さを測定させたり、単位の関係について考察させたりするなどして、理解の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> • 小数のかける数やわる数が整数である場合の小数のかけ算およびわり算の計算を繰り返し行い、計算の技能を高める。 • ドリルパークやタブレットドリルを活用して表や式、折れ線グラフを用いて、伴って変わる二つの数量の変化の様子を表したり、変化の特徴を読み取ったりする機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> • 教科書を徹底活用する。 • 前時の復習の時間を取ってから授業をスタートするように計画を立てて行う。 • 習熟のために、問題を多く解かせる時間を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 教科書や計算ドリルの徹底活用 • 導入で既習事項の復習を行い、授業で活用できるようにする。 • 小数の加減乗除、筆算などの習熟は、毎日の授業や朝学習などを利用し、問題をたくさん解く時間を設定する。その際にタブレットドリルやプリントを活用する。 • 立式する前に図や数直線を自力でかけるように繰り返し指導する。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> • おはじきやブロックなどの反具体物や図を用いて、数量の関係を捉えて、どの場面でも同じように加法や減法が用いられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 計算方法などの思考を図や式に表せるように、ノート指導に取り組む。 • 授業の中で問題作りに取り組む。既習事項を用いて自分で解決の方法（図を使うなど）を考える力を身に付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 既習事項と関連付けて考えさせ、見通しをもって図や表から立式させる。 • 具体物や半具体物を操作することで、解決の手立てを考えさせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 話し合いの機会を設けて、伴って変わる二つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察させ、規則性があるかどうか、ある場合にはどんな規則性があるかを明らかにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> • ペア学習やグループ学習を取り入れて、自分の考えを説明したり、相手の言っている意味を解釈したりする時間を確保し、説明することへの抵抗感をなくしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> • ペア・グループ学習などで、自分の考えを説明したり、相手の考えを解釈したりする時間を設定する。 • 自分の考えを説明する際には、図・式・言葉を用いる習慣を付け、分かりやすい説明ができるように促していく。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> • 具体物や図などを活用して、問題を解決したりその結果を確かめたりする活動を経験させることで、自ら算数を学ぶ楽しさを実感させるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> • ペア学習を取り入れて自分の考えや、友達の良さを交流し合うことを通して主体的な学習態度を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 時計や巻き尺などの具体物を使った指導を取り入れることで、興味や関心を高める。 • ペア学習や小グループでの意見交換や、考えを伝える学習を行い、自信を付けさせて発表できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 既習事項と関連付けて指導することで、これまでの知識を活用すれば課題解決ができるという見通しをもたせ、主体性をたかめる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 授業の導入場面ではどの児童にも答えられるような問題から入って児童の意欲を引き出し、児童からのアイディアを生かした授業展開をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> • 自分の考えを書けるところまで書くことを習慣化する。机間指導で励ましの声をかけたり、ノートで励ましのコメントを書いたりして、意欲付けを行う。 • ペア学習などで考えを伝え合い、自信を付けさせて発表できるようにする。

※太枠内は、特に重視する内容